2006（平成18年）6月25日（日曜日）（1）
VOL.14
●無料誌 ●年4回発行 ●部数：5万部 ●配布エリア：岩見沢市・三笠市・美唄市

大好き！幾春別川
DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

発行元：幾春別川ニュース編集委員会
編集委員長　嵯峨　義輝
〒068-0007
岩見沢市7条東9丁目　石狩川開発建設部岩見沢河川事務所内編集委員会事務局
TEL：0126-23-9555　FAX：0126-25-1697

春夏秋冬
みんなで参加した川のイベント
来年も、さ来年も、ずっと続けていきます。
幾春別川流域の自然を大事にしたいから。

4月　サケの稚魚放流・岩見沢＆三笠

サケを幾春別川に呼び戻すことを目的に平成２年から始められた、サケの飼育と放流のイベントです。

毎年４月に、１２月から育ててきたサケの稚魚を一斉に幾春別川に放流します。「育ての親」は、幾春別川が流れる岩見沢市と三笠市の保育園や小中学校の子どもたちと、事業所に勤める人々。放流日はあいにく小雪がちらつく寒い日でしたが、子どもたちは元気にサケの赤ちゃんを送り出しました。

（幾春別川をよくする市民の会　会長　嵯峨義輝）

※詳細は2ページをご覧ください

2月　雪中植林・北村

森をつくるために始められた雪中植林。旧美唄川の河川敷で行われており、今年の冬で4回目を迎えました。

少しずつこのイベントも知られるようになり毎年多くの方々に「北村に森をつくろう」と参加して頂いています。そこには、「豊かな森を子どもたちのために残したい」との思いが込められています。

カミネッコンに絵を描くのも楽しいよ！

※カミネッコン…ダンボールでできた植樹用の鉢。

子どもたちが大人になったとき、木々が育ち豊かな森が生まれて自然いっぱいの北村を、もっともっと愛してくれるように、来年も、その次の年もみんなで協力して植樹活動を行っていきます。

（NPO法人山のない北村の輝き　事務局長　島一雄）

6月　フラワーライン・岩見沢

花を植えて水辺を美しく飾ろうと、今年も幾春別川の狩野橋の周辺で開催されました。

足元の草花たち
PART. 1

写真家
若林　信男
（わかばやし　のぶお）

「エンレイソウ（ユリ科）」「ツユクサ（ツユクサ科）」

普段、何気なく歩いている散歩道。足元をよく見ると、雑草と呼ばれている植物をいっぱい目にすることが出来ます。

雑草と言う名の植物は無く、一種類一種類に立派な名前が付けられています。

今回のシリーズでは、私が好きな散歩道の１つ、三笠博物館の裏のサイクリングロードで見かけた花や、三笠市民に一番親しまれているヌッパの沢で出会った花たちを紹介します。

日当たりで元気よく咲く花、日陰で静かに咲く花、そんな小さな花の紹介をします。「エンレイソウ」。明るい林を好む花で、野草大好き人間の人たちのなかでは人気があり、自然の豊かさを示すバロメーター的な存在の花です。

「ツユクサ」は、何処にでも生えていて、余り気にされていない花ですが、腰を屈めてよく見ると、青と黄色の色が目立つとても美しい花です。大昔？　お浸しや白ごま和え・汁の具として食べたと言う人が多いみたいです。果たして、どんな味が・・・。

エンレイソウ

ツユクサ

行ってらっしゃいサケくん。元気に帰ってきてね！

「サケくんたち　げんきに　もどってきてね　まってるよ」と上幌向保育園のみなさん

昨年12月に恵庭市の道立水産ふ化場からサケの発眼卵の提供を受けて、岩見沢市と三笠市の幼稚園や小学校、市役所、事業所などで飼育してきました。

稚魚は4ヶ月で体長3・5㌢から5・0㌢に成長し、4月上旬、世話をしてきた子どもたちの手によって、両市の幾春別川に放流されました。

三笠市では、4月7日に行われた美園小学校の放流から始まり、市内の小中学校で飼育した2，700匹を唐松町の三笠水辺の楽校「であい」に放流しました。子どもたちは、「三笠まで元気に戻ってきてね」と声を掛けていました。

岩見沢市では、「幾春別川をよくする市民の会」の主催で4月13日、幼稚園や小学校、事業所など66ヵ所で育ててきた稚魚17，000匹を若松町の幾春別川に放流しました。

子どもたちは「早く大きくなって戻ってきてね」「さみしいけど元気でね」などと声を掛けて、サケを丁寧に幾春別川に放していました。

上幌向保育園の飼育日誌

12／ 7‥‥サケの発眼卵200匹が到着！ 常に温度が10℃～11℃になる玄関の棚において置きました。1週間ほどで早いものがふ化し、みんな大喜び！
12／22‥‥約140匹がふ化。水を替える。（以降、月に1回のペースで交換）
12／25‥‥ふ化しない卵を1匹発見。

1／14‥‥1匹死んでしまう。
1／26‥‥1匹死んでしまう。
1／30‥‥毎日エサをやり始める（朝晩1回）。
2／12‥‥1匹死んでしまう。
4／ 6‥‥水槽から飛び出して1匹死んでしまう。
4／ 9‥‥前日、エサをやるのが遅れ、共喰いにより5匹死んでしまう。
4／13‥‥晴れて288匹を放流！

毎朝7：30に子どもたちが来ますので、その前に水を交換し、エサをやっていました。「おはよう」と声を掛けると、サケたちも答えてくれていたような気がします。放流日の朝は自分の子どもをお嫁さんに出すような気持でしたよ。

上幌向保育園長
平木忠男さん

三笠市立美園小学校「しゃけっ子クラブ」のみなさん

岩見沢市立第一小学校の飼育係のみなさん

桂沢湖や周辺の地域資源の活性化をめざして

「桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議」桂沢ダム水源地域ビジョン提言書が完成！

「水源地域ビジョン」とは、ダムを活用した水源地域の自立、持続的な活性化のために水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定する地域資源活性化のための行動計画です。

三笠市の桂沢ダムでは、平成17年1月から地域住民、ダム関係者や関係行政機関、関係団体が集まり、「桂沢湖や周りの自然が大好きな人♥会議」を行ってきました。

全7回の会議によってビジョンの行動計画について取りまとめられた提言書が、平成18年4月、石狩川開発建設部長と三笠市長にそれぞれ手渡されました。

現在、桂沢ダムをかさ上げする「新桂沢ダム」の建設と「三笠ぽんべつダム」を新設する“幾春別川総合開発事業”が進められています。そのため桂沢ダム水源地域ビジョンでは、ビジョンの策定にあたって現在の「桂沢ダム」と「新桂沢ダム」「三笠ぽんべつダム」を考慮した行動計画となりました。

ダムや湖、湖畔、水源地周辺（桂沢国設スキー場、みかさ遊園、サイクリングロード、炭鉱の産業遺産、山や森そして川など）の資源を住民たちが活用できる45個の具体例が示されています。

桂沢ダム（新桂沢ダム）は、「ダム湖一周コースの道路整備をしてサイクリングとホーストレッキングを実施する」など、三笠ぽんべつダムは、「魚や化石にも優しい新しいダムのPR方法」など、ビジョンのテーマである「桂沢の自然と三笠の歴史の再発見」に沿って意見が取りまとめられました。

今後もビジョンの推進方法や体制づくりについて、引き続き会議を行っていく予定です。

いろいろな意見が出され、積極的な会議となりました

水辺の風景

「カヌーに乗って旧美唄川の調査」

岩見沢市北村　瀬川　洋さん

毎年9月上旬に行われている河川調査で、カヌーに乗って護岸の様子などの確認を行っています。

写真募集　あなたの好きな水辺の風景を写して、お送りください！

■応募内容・プリント、デジタルポジフィルムなど形態は自由です。写真のほかに、川に対する「想い」を100文字程度にまとめてお送りください。本誌「大好き！幾春別川」に掲載させていただきます。
※1人何点でも応募できます。また、写真の返却はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
送付先・〒068-0007　岩見沢市7条東9丁目　石狩川開発建設部　岩見沢河川事務所内　「大好き！幾春別川」編集委員会事務局

川とわたしの思い出

「幼いころに川遊びをした幾春別川」

元幾春別川物語編集委員
岩見沢市　市村　典男

生まれ育ったところは幾春別川が流れており、家の中からも見ることができました。住まいは変われども70数年この川の流域で生き、川とともに苦楽を過ごしてきました。

幾春別川は紆余曲折した箇所が多く大雨が降ると出水氾濫に悩まされ、農作物に甚大な被害を与えた川でした。しかし反面、親しみやすい川でもありました。子どもたちにとって唯一の遊び場だったのです。

春は、川のほとりに生える笹タケノコや、虎杖（通称スカンコ）の若芽をつんでおやつにしていました。もちろん、魚釣りもしました。また、ガラスでできた洞の中に、つぶしたご飯に糠を混ぜて団子状にしたエサを仕掛け、川エビやフナ、川ガニなども取りました。これらは貴重な蛋白源でした。特に川エビがおいしくて、水に入れて土を吐かせたあと、生きたままフライパンで炒めて食べました。その香ばしさは今でも懐かしく思い出されます。

夏には、水泳や浅瀬での砂遊び、笹船流しをよくしました。秋はカゲロウやチョウ、バッタなどの虫取り。冬は雪の積もったときに堤防の上から川に向かって直滑降やスラローム、ジャンプなどをして滑っていました。また川が20センチメートルほどの氷になると、夕方のうちにスコップで氷の上の除雪をしておくので、翌日には「簡易スケート場」ができました。当時は今のようなスケート靴がなく、雪の上で滑る皮バンドを長靴に締め付け、スピード競争をしていました。

今とは違い、物のない時代でしたので子どもなりに自分たちで工夫して楽しんでいました。また、友達との友情を大切にしていたことも誇りです。

市村さんの自宅周辺を流れる幾春別川の地図

※国土地理院発行の2万5千部の1地図（岩見沢）を使用しました

わたしたちの活動紹介

川を中心にした活動を展開する仲間たちをご紹介します。

Part. 1 NPO法人　しりべつリバーネット

後志郡蘭越町

“清流日本一”とたたえられる尻別川は、アイヌ語の「シリ」「ペツ」からきていると言われています。「山の川」という意味で、その形容のとおり、支笏湖のそばにある「フレ岳」に源を発し、羊蹄山の懐をまくようにして日本海に注いでいます。

尻別川流域には7町村が点在していますが、昔から尻別川はこの土地に住む人々に母なる川とあがめられてきました。

「しりべつリバーネット」は、尻別川の流域で地域間連携をとおして生活の基盤と地域の歴史や文化の愛護、水環境や自然環境の保全など健全な地域社会を作ることを目標に設立し、今日に至っています。

尻別川は魚の種類も豊富で釣りファンにも愛されていますが、近年ラフティングやカヌーといったアウトドア業者が川を占有するようになってから、釣り人と業者の間でトラブルが発生しています。

これらのことから川のルールづくりの必要性を痛感し、当法人主導のもと、河川に関係する諸団体に呼びかけて、官民の垣根を越えた議論を重ねた結果、一定の基準づくりをしました。

このほか河川愛護や啓蒙の一環として「せせらぎまつり」や「河川クリーン作戦」「雪中植林」など地域住民とも協働し実施しています。

また、川に学ぶ体験活動と連携し、河川活動の指導者育成にも取り組んでいます。

これらの活動により母なる尻別川が、より多くの人々に愛されることを願ってやみません。

（文責・常務理事　工藤　達人）

雅美の体験レポート

ダム探検隊！

今回は桂沢ダム（湖）の近くにある

「桂沢発電所」

をご紹介します！

幾春別川の流域には、川と関係の深い様々な施設があります。FMはまなすの千葉雅美（ちばまさみ）が体を張ったレポートをしていきます。

「桂沢発電所」は「桂沢ダム」の水を利用して岩見沢市と三笠市の家庭などで使用する電気を発電しています。では、どのように水を利用して電気が生み出されているのでしょうか？　今回は「水力発電」の仕組みについてご紹介します！

※昭和32年に造られた桂沢ダムは、発電のほかに飲用水や農業用水、洪水調節に利用されている「多目的ダム」です。

1 ダムから引かれた水を発電所に送る鉄管は直径3メートルもあります！

2 桂沢発電所には2台の発電機があり、2号機は経年による劣化傾向が見られたため、平成15年に世界に6台しかないという新型の高圧発電機（写真左）に更新されました。

3 発電所の構造図を見ながらわかりやすく説明してくれます。

4 いざ、2号機の中へと、階段を下りていきます！　発電所内は機械を運転する大きな音がしていました！

↓ これが電気を生み出す発電所の中枢で、磁石の働きをする「回転軸」です。水の力によって、1分間でなんと、429回転します。

5

6 回転軸の下に水車が付いており、落ちてくる水力によって磁石の回転軸を高速回転させて電気を発生させるという仕組みです！　ダムから最大で1秒間に23．5立方メートルの水を取水し、75メートルの落差によって最大で15，000キロワットが発電されています。

見学の感想

恥ずかしながら「初めて聞くことばかり」でした！　専門的で難しい部分もありましたが、大坂さんの丁寧な説明のおかげで水力発電所に興味を持つ事ができました。

川の水を利用して電気が出来るなんて、改めて水の素晴らしさを実感できました！

桂沢ダムの1年間の発電量は、10万人都市の電気消費量に相当します。発電された電力は北海道電力（株）にすべて販売されます。ちなみに、一般家庭の1ヶ月の平均電気使用量は、200キロアワーとのことです！

今回の案・内・人

電源開発株式会社
桂沢発電所
おおさか　みきお
大坂　幹雄さん

見学は随時受け付けています。気軽にお問い合わせください！

流域の人と歴史

洪水体験談 VOL. 1

すべての生き物を育む母なる川も、時として暴君と化し、暴れる。

三笠市長
小林 和男
（こばやし かずお）

我がまちを流れる母なる川「幾春別川」は、時として暴君と化すことがある。

幾春別岳を含む夕張山地を源として延長58．7キロメートル、その間、奔別川、幌内川、市来知川、旧美唄川と合流し石狩川にそそぐ。

水害の歴史は本市が自治体として誕生して125年、この間、数え切れないほどの被害をもたらして来た。

私の子どもの頃の記憶をたどってみると、通学路の途中の橋が流され、学校までの時間が多くかかった事や、増水の川に飛び込んで、流されてくる流木に乗って遊んだ事などが思い出される。

田畑などの被害も冠水は別にして、稲架掛（はさかけ）のままの稲やスイカ、カンロなど、なかには農家が飼っていた豚などの家畜も流されていたことなどが思い出される。

しかし、この頃はまだ、自分が直接被害に遭ってもいなく、また水害の恐ろしさも体験していなかったので、恐怖感はさほどなかったと思う。

ところがある時、水害があって多くの被害があった翌日の事である。

登校途中、川岸に水死体があがっていて皆が覗き込んでいた。大人も警察も誰も来ていない。みんな登校途中の生徒である。泥まみれになり鼻や口に小枝が刺さって、大きく目を見開らいている。おそらく、大水によって流されて亡くなった人だろう。

水害の怖さや恐ろしさをこのとき初めて実感した。そのときの記憶は今でも鮮明に脳裏に刻まれている。

幾春別川総合開発計画に基づいて桂沢ダム建設が始まったのが、昭和26年、そして昭和32年、北海道では初めての多目的ダムとして完成した。

ちょうどこの年は、我が町が市制施行した年でもあり、二重の喜びの年であった。このダムの完成によって、これで我がまちも下流のまちも水害の恐怖から開放されるだろうと誰もが思っていた。

しかし、その後も幾度かの水害が地域住民を襲い、多くの被害をもたらした。わが家が水害の被害にあったのは2回、1回目は昭和41年である。

このときの我がまちの被害は死亡2名、重軽傷10名、家屋の全壊流失3棟、半壊一部損壊13棟、床上浸水が335棟、床下浸水は496棟、損害被害総額は4億5千312万円で、災害救助法適用となっている。

今でも忘れない。前日からの大雨は、止むこと無く降り続いている。それは8月19日の朝、あっという間に水が玄関先から浸水して来た。音もなくである。

家族みんなで1階のものを2階にと言っているうちに、水はどんどん家に浸水して来る 一。

（次号、9月号に続く）

▶小林氏が所蔵している水害時の写真。床上まで浸水し、被害のひどさを物語っている

川の記憶

―「親子」だった幌向川と幾春別川―

もともと幾春別川は、栗沢の森林公園の奥地に源を発する「幌向川」に合流してから石狩川に注いでいました。幌向川とは、「親子」の関係だったのです。

ところがご存知のように、うねうねと曲がりくねったこの川はたびたび洪水を起こし、大きな被害を与えていました。特に春の融雪期や秋の台風のときはひどく、流域の農家約3千戸は収穫を前に濁流にすべてを奪われ、悲嘆にくれるのが当たり前のようになっていたのです。

そのため「親子関係」を解消せざるを得ない状況に追い込まれ「幾春別川の改修工事」が計画されたのです。それは、上流部にある幾春別川を、新水路を開削して石狩川に直接つなげるというものです。

昭和9年に計画、昭和16年に着工、昭和24年にようやく暫定的に通水されました。その後新水路区間の河道拡幅や堤防盛土を行い、昭和36年に旧幾春別川との「締切」を行い、新しい幾春別川が誕生したのです。しかし、通水までに27年以上かかっていますが、なぜここまで年数が必要だったのでしょうか。距離から見ればそれほど難しくなさそうに思えますが、工事が進まなかった理由が3つほどあげられます。

1つは予算配分の関係、2つ目は日中戦争と第2次世界大戦によって工事できなかったこと。3つ目は軟弱地盤のため工事が難しかったようです。

このように、今では「他人」になってしまった幾春別川と幌向川ですが、かつては1本の川としてつながっていた歴史を持っているのです。

みなさまのおたより、お待ちしております！

本紙は、楽しい紙面を作るためにみなさまからのご意見や感想、また、今後取り上げてほしい記事の内容などについて、おたよりを募集しております。下記のあて先までおたよりをご郵送ください。

★送付先★
〒068-0007 岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内 「大好き！幾春別川」編集委員会事務局
※ご質問の場合も、郵送またはファックス（0126－25－1697）へお願いします。

年間行事予定

■河川愛護月間：7月1日～7月31日 ■森と湖に親しむ旬間：7月21日～7月31日

●「旧美唄川を愛し、きれいにする集い」河川清掃・北村
・開催予定日：7月1日
・開催予定場所：桜つづみ公園から水辺の楽校周辺
・主催：NPO法人山のない北村の輝き

●石狩川下覧櫂～川下り
・開催予定日：7月8日、9日
・開催予定場所：石狩川・深川市～月形町
・主催：下覧櫂実行委員会

●フラワーライン夏
・開催予定日：7月中旬
・開催予定場所：幾春別川河畔
・主催：幾春別川をよくする市民の会

●Eボート大会
・開催予定日：7月29日、30日
・開催予定場所：月形町皆楽公園
・主催：Eボート大会実行委員会

●桂沢トム・ソーヤ
・開催予定日：7月下旬
・開催予定場所：桂沢湖湖畔
・主催：桂沢ダム森と湖に親しむ旬間行事実行委員会

●三笠ダムフェスタ2006＆みかさ遊園まつり
・開催予定日：7月30日
・開催予定場所：みかさ遊園
・主催：三笠ダムフェスタ2006＆みかさ遊園まつり実行委員会

●親子釣り教室
・開催予定日：7月下旬
・開催予定場所：桂沢湖湖畔
・主催：三笠の湖・川・緑を愛する会

●河川流域視察ツアー
・開催予定日：8月
・開催予定場所：幾春別川河畔・桂沢ダム
・主催：幾春別川をよくする市民の会

●「川をはかる・川を見る・川を知る」河川調査講習会
・開催予定日：9月上旬
・開催予定場所：北村栄町堤内「水辺の楽校」
・主催：NPO法人山のない北村の輝き